

あそびのまなび。

今回のテーマ

「かんしょくあそび」

わかば園では、「かんしょくあそび」を設定しています。わかば園のあそびの中にはミニパイプ・小麦粉ねんど、スライムのように、主に感触を楽しむものが多くあります。このような「かんしょくあそび」には一体どのようなねらいがあるのでしょうか。今回、その例を少しご紹介してみたいと思います。

さわる

手の触覚機能・手指の操作性を高める。
見ながら操作すること、自分の動きやその結果を目で確認することにより、手の動かし方やほどよい力の入れ方を覚える。

ふむ

足の皮膚感覚・触覚を育てる。

かみふぶき・ミニパイプなど

あびる

皮膚からの刺激を通して全身の触覚を育てる。
刺激に強弱をつけることで筋感覚を育てる。

『かんしょくあそび』における

こどもの体験とそのねらい

小麦粉ねんど・スライム・フィンガーペインティングなど

みる

色を使う・形を作ることを通してイメージの幅を広げる。

ふれる

身体部位への刺激を通して、自分の身体についてのイメージを育む。
その際、大人が「足だね」などの言葉かけを行うことで、自分の身体への意識を育てる。

表現する

自分の好きな色や形を選んだり、自分がしてもらいたいことを要求する経験を通して、自我を育成する。

ボールプール・ボールすべりなど

お子さんの中には、感覚的な特性から、特定の感触を嫌がる方もおられます。(工作のりや砂が触れない、芝生や砂の上をはだして歩けないなど)

そのようなお子さんでも、「これは何だろう?」と興味を持つことで、少しずつ不安感や拒否感が軽減し、徐々に参加できるようになることがあります。

そのため、わかば園では、できるだけ楽しい雰囲気をつくり、お子さんが楽しんで受け容れられるような内容から始めることを心がけています。